

第12分科会 「自立と共生」 運営概要

【研究課題】自立や共生の実現に向けた特別支援教育と環境教育の推進における校長の在り方
【リーダーシップの視点】 1. 子どもの自立を図る特別支援教育の推進
2. 持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進

分科会研究協議の運営計画

我が国が目指している社会は、互いの人格と個性を尊重し支え合う共生社会である。その実現のために、小学校教育においては、自分らしさを大切にしながら、夢や希望をもって「自立する力」を育むとともに、一人一人が仲間として支え合いながら、より良い社会を築いていこうとする「共生」と世界中で深刻化する環境問題の課題解決に向かう自然との「共生」の態度を養うことが大切である。

学校においては、障がいの有無に関わらず誰もが相互に尊重し合える共生社会を築くために、障がいのある子どもの自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援する必要がある。このような視点に立って、子ども一人一人の教育的ニーズを把握するとともに能力を高め、生活や学習上の困難を改善または克服できるような指導及び支援を行うことが重要である。これらのことは、特別な教育的支援を必要とする子どもが在籍する全ての学校においてなされるものである。

また、環境汚染や異常気象、自然災害の多発等の地球環境の悪化を受け、環境破壊の抑止、生物多様性の保全等の地球環境保全の考えに立ち、自然環境の保護・整備や循環型社会の形成に向けた意識改革を図り、かけがいのない地球全体の環境保全に取り組む意欲を高め、能力を育成する環境教育の推進が望まれている。

ここでは、全教職員が「自立と共生」の社会づくりにおける特別支援教育や環境教育の役割について共通認識に立ち、一体となって推進していく校内指導体制の確立や、家庭・地域・関係機関との連携等を進めることが重要となる。

本分科会では、子どもの自立を図るための特別支援教育や、「持続可能な社会」の担い手を育む環境教育を推進するための具体的な方策と成果を明らかにする。

視 点1 子どもの自立を図る特別支援教育の推進

- ・特別支援教育の校内支援体制の整備と関係機関等の連携の在り方
- ・特別支援教育の推進を目指す教職員の意識改革と専門の向上

視 点2 持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進

- ・各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の関連を図り、全校体制で取り組む環境教育の推進
- ・家庭、地域、関係機関との連携を図り、環境保全に主体的に取り組む態度と能力を育てる実践的な活動の工夫

昨年度までの成果・課題

～平成29年度 全連小佐賀大会・道小宗谷・稚内大会より～

【成 果】

- (1) 校長が指導性を発揮し、教職員の指導力向上を図ることで組織の協働性が高まり、さらなる研修やチーム支援会議の運用、外部機関との連携による支援を要する児童と保護者に対する支援体制充実につながった（特別支援教育コーディネーターや支援員の活用、個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用、幼保小中間の連携）
- (2) 地域に誇りをもてる活動を仕組むことで地域再生の気運を高め、自然や文化の素晴らしさを実感させることの重要性を確認できた。地域と学校の願いを共有し、地域・自然環境や人材を活用した環境教育を工夫することで、学校の果たすべき役割を再認識することができた（教育課程編成における校長の役割の重要性、地域の協力等）

【課 題】

- (1) 特別支援教育コーディネーターの育成体制の構築と職員の専門性向上により、組織としての対応力を高め、いかに個々の教育的ニーズを理解・支援していくか（インクルーシブ教育の理念、学校としての具体的な支援の手立て）
- (2) カリキュラムマネジメントの観点から、教科横断的な教育内容をいかに推進していくか、小中9年間を見据えた体系的な位置付けを図り、いかにアプローチしていくか（地域の特性を生かした環境教育計画、活動の精選、学習時間や人材、活動に関わる予算の確保）

研究発表の概要

【視点1】子どもの自立を図る特別支援教育の推進

研究発表者：西宮市立段上西小学校 校長 山田 和代

「自立と共生の実現に向けた特別支援教育の推進」～一人一人の教育的ニーズに対応した学校づくり～
発表の趣旨

共生社会の形成に向けて、多様な学びの場での連続性や教科間、学校間のつながり、社会・職業との接続を踏まえた「自立と社会参加」に向けたキャリア教育の充実はますます重要となる。障害のある子どもが原則として通常の学級に在籍しながら、特別の場で適切に指導及び必要な支援を受けることができるように弾力的なシステムを構築したい。そこで、「連続性のある多様な学びの場としての校内通級（少人数指導）」の取組を提案する。

発表の概要

- (1) インクルーシブ教育システム構築に向けた体制の充実
(異学年交流ふれあい活動、チャレンジ活動、特別支援学校との居住地交流等)
- (2) 多様な教育的ニーズに対応できる連続性のある弾力的な仕組み～3次的支援システム
(授業のUD化、個別支援体制整備、特別支援学級における指導)
- (3) つながり、組織的に取り組む
(計画的な校内組織運営、専門機関との連携、保護者との連携)

【視点2】持続可能な社会の担い手を育み、教科・領域との関連を図った環境教育の推進

研究発表者：小樽市立張碓小学校 校長 遠藤 隆典

「自然環境を大切に作る心と実践力を育てる環境教育の推進における校長の役割と指導性」

発表の趣旨

今日の環境教育は、「環境」に加えて新たに「経済」「社会」「文化」なども視野に入れた総合的な視野をもつ「持続可能な社会」の形成者の育成を期すことを目的としている。学校教育においては、環境に対する豊かな感受性や環境に関する見方や考え方を育むとともに、環境に積極的に働きかける実践力を育てることが求められている。小樽市校長会では3か年計画を立て、市の全小学校の実態を詳しく調査するとともに、それらをもとに環境教育の推進と充実に向けて校長の果たすべき役割と校長としてのリーダーシップの発揮はどうあるべきかについて究明していく。

発表の概要

- (1) 調査の概要
- (2) アンケート調査の結果による考察
(重点目標への位置付け、全体・年間指導計画の策定状況、環境教育の内容、子どもの問題意識と実践力、保護者や地域・関係団体との連携、小中連携、教職員の意識、推進上の課題)
- (3) 実践事例

協議の流れ

休憩・後半準備(10分)

1. 開会・日程確認(10分)
2. 趣旨説明(10分)
3. 研究発表 視点1(20分)
4. 研究発表 グループ・全体協議(15分)
5. 視点1 グループ・全体協議(50分)
6. 研究発表 視点2(20分)
7. 研究発表 グループ・全体協議(15分)
8. 視点2 グループ・全体協議(50分)
9. まとめと今後の課題(10分)
10. 連絡・閉会

討議の柱

【視点1】「子どもの自立を図る特別支援教育の推進における校長の役割と指導性」

キーワード：校内支援体制、関係機関との連携、教職員の意識改革、専門の向上 等

【視点2】「学校全体で組織的・計画的に取り組む環境教育の推進における校長の役割と指導性」

キーワード：教育課程の工夫、地域・関係機関との連携、指導体制づくり、教科・領域との関連、主体的に取り組む態度 等

お願い

グループ内で名刺交換を行いますので6枚程度お持ちください。

グループ編成及びグループ討議の司会・記録につきましては、後日、北海道小学校長会ホームページに分科会参加者名簿(座席表)を掲載しますのでご確認ください。司会・記録を担当していただく方につきましては、当日のグループ討議の進行をよろしくお願いたします。

各地区・各校の現状や取組についてグループ討議の中で交流します。できましたら、地区や自校の「特別支援教育及び環境教育の取組・課題」をA4版1枚程度にまとめて6部程度ご持参ください。